

1. 名称

六県神社の御田植祭(子出来オンダ)

2. 指定の履歴

平成17年5月2日町指定文化財(名称：六縣神社子出来オンダ)、平成18年3月31日解除、同日県指定文化財指定(無形民俗)

3. 当該無形の民俗文化財を主として保持している者若しくは団体又は保存することを主たる目的とする団体の氏名又は名称及び住所

保田自治会

奈良県磯城郡川西町保田

4. 内容及び由来

2月11日(以前は2月14日)の夜、六県神社拝殿にて演じられる御田植祭。この御田植祭には妊婦の弁当運びの時に出産の所作が伴うことから「子出来おんだ」とも呼ばれる。この行事の始りは、境内富貴寺の創建時(平安時代)と伝えるが、明確ではない。しかし、御田植祭にて演じられる所作や台詞を見るとかなり古風な様式を持っていると認められる。

行事内容は、古老(十人衆)が拝殿右(北)側に座り、その前で演じられる。その所作は①水見回り、②牛使い、③施肥、④土こなげ、⑤田植、⑥螺拾いと、妊婦の弁当運びと安産の神事及び種まきの所作と掛合い言葉の順に演じられる。

妊婦の弁当運びと安産の神事では弁当を夫のもとに運ぶ所作を行った後、以下のようなやりとりを行う。

神主(夫)が「東^{ひがし}田は」(東の田へ弁当を幾ら持っていったか)と問えば

妊婦(妻)が「三バイと二杯と又五杯」(十杯持っていった)と答える。以下同様に

神主「西 ^{にし} 田は」	妊婦「四杯と四杯と又二杯」
神主「北 ^{きた} 田は」	妊婦「三バイと三バイと又四杯」
神主「南 ^{みなみ} 田は」	妊婦「二杯と二杯と又六杯」
神主「臺所廻りを尋ねます」	妊婦「ハイ」
神主「水は」	妊婦「水壺の中に」
神主「杓は」	妊婦「水壺の上に」
神主「お杓子 ^{しゃもじ} は」	妊婦「釜の蓋の上に」
神主「箸は」	妊婦「箸筒に」

神主「茶碗は」 妊婦「茶碗籠の中に」

神主「オセンソコ(ご飯のことは)」 妊婦「櫃の中に」

と問答を繰り返す。このあと妊婦が「キリキリ腹が痛くなりました」と陣痛を訴え、腹に抱えていた太鼓を放り出し、神主がその太鼓を拾って「ボン(男の子のこと)出来た出来た」といって太鼓を叩く。

種蒔神事は以下の歌を歌いながら行う。

- | | | |
|------------------------------|-----|---------------------------------|
| 一、近江の国通れば — | ハヤシ | ^{よんなか} 豊年よけれども福の種蒔こよ — |
| 雪森長者に行き合うをたう — | ハヤシ | 同 前 |
| 行き合ふたる處なら此の處に蒔こよ | ハヤシ | 同 前 (ここで種を蒔く) |
| 一、河内の国通れば — | ハヤシ | 豊年よけれども福の種蒔こよ — |
| せしなげ長者に行き合うをたう — | ハヤシ | 同 前 |
| 行き合ふたる處なら此の處に蒔こよ — | ハヤシ | 同 前 (ここで種を蒔く) |
| 一、宇陀の ^{こおり} 郡を通れば — | ハヤシ | 豊年よけれども福の種蒔こよ — |
| 市森長者に行き合うをたう — | ハヤシ | 同 前 |
| 行き合ふたる處なら此の處に蒔こよ — | ハヤシ | 同 前 (ここで種を蒔く) |
| 一、大和の国通れば — | ハヤシ | 豊年よけれども福の種蒔こよ — |
| 橋中長者に行き合うをたう — | ハヤシ | 同 前 |
| 行き合ふたる處なら此の處に蒔こよ — | ハヤシ | 同 前 (ここで種を蒔く) |

大和四八万石 保田の明神、蒔き納め

※妊婦の弁当運びと安産の神事の問答および種蒔神事の歌は辻本好孝「和州祭禮記」天理時報社 S19.3.20より引用

5. 行われる時期及び場所

毎年2月11日 (もとは14日)

6. その他参考となるべき事項

御田植祭には妊婦に扮した男子が腹に太鼓を入れ、田仕事をしている夫(長老の神主役)のもとへ弁当を持っていくときに産気づいて畦道で男児を出産する所作が伴う。そのときの台詞は妊婦と神主とが独自の問答を行いユーモラスな所作を演じる。また、種蒔きの所作に伴う台詞(歌)も古風な掛合いで演じられており、全体的に古風な芸能所作が残っている。